

徐 芸萍  
Xu Yiping



## 暇から生み出すロマンチック

オイルパステル、鉛筆、紙



## 暇から生み出すロマンについての イラストレーション表現

現代社会に生活している私達はほぼ「暇」というものが失われた。

速いスピードで発展するオンライン世界に慣れて、新しい情報を受け入れなければ、人が暇になるとかえって焦り、不安を感じるようになったようだ。一人に在るにしても、チャットや SNS などで他人との繋がりを求め、維持しようとして、まるで社会の特徴とされるまでになっている。

暇の状態が必ずしも消すべきものであるかという疑問が浮かび上がった。

「退屈に導く鈍感さには幸福が隠れている」とウィリアム・ワーズワースとヘルマン・ヘッセの文学作品を読みながら、この話を信じている。暇の余裕を持って、身の周りの事物に対して敏感になれ、日頃忘れがちな気持ちを引き出し、見て、聞いて、触って、想像しながら気がつかないロマンを出してくれると思い始め、暇の状態から感じた些細なロマンチックをイラストレーションで表現しようと思う。

このテーマについて、私の作品によくいくつかのキーワードが出てくる。それは「空っぽい状態」と「可能性に持つ好奇心」。

具体的に言うと、「暇」がよく「休む時間」、「用事がない時間」と認められるが、私はそうそれが必ず特定の時間帯を指すではなく、個人の精神的な体験によって存在する状態であると考えた。即ち人間が空っぽい容器みたいな状態になったのが暇だと言える。一方で、「個人が日常生活に対する豊か且つ原始的な感受性」がロマン主義理論により創作の出発点であり、センシティブな意識で、主観な目線から物事を観察することがなければいけない。研究を行われば行うほど、私もよく好奇心が出て、あらゆる物の可能性に関心を持つようになった。

作品を通して、暇の隙間にも感性と想像の余地があり、楽しむことができることを伝えたいのだ。余白がある画面で、誰もが自由にこの話題に参加でき、人々自分なりに暇の状態を楽しめればと思う。作者としての私も「暇をつぶし」の生き方を一度見直しできて、作品制作する過程で感情をきちんと届けていく能力を育てられ、自分の限界を超えたと気づいた。